

公民科（現代社会）学習指導案

指導者 教諭

印

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和3(2021)年 月 日() 第 時限
- 3 学 級 ホームルーム(名)
- 4 使用教科書 『現代社会』（東京書籍）
- 5 単 元 名 法の下の平等（夫婦別姓から男女間の不平等について考える）
- 6 単元設定の理由

<生徒観>

本クラスの生徒は、今日の社会的な問題について興味・関心があり、その問題についても自らの意見を持つことができている。しかし、自らの日常生活において人権との関わりを考える機会が少ないため、自らの問題として捉えることができている生徒が多い。人権について 幸福、正義、公正、などを用いて多面的・多角的な考え方ができる力の育成が必要である。

<教材観>

本単元は、学習指導要領「現代社会（2）現代社会と人間としての在り方生き方（イ）現代の民主政治と政治参加の意義」に該当し、「民主政治の基本原則に基づきながら、日本国憲法の基本原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解させるとともに、民主政治の前提となる個人の在り方について、個人と国家を中心に考察させ、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について考察させること」をねらいとしている。

<指導観>

基本的人権の保障が、近代民主政治の発展の中で築かれてきたものであることを理解させるとともに、基本的人権の保障の充実と発展が民主政治の究極の目標であることについての認識を深めさせる。個人と国家について理解し、生徒が自らの日常生活における人権について意識を高めることができるようにする。

7 単 元 の 目 標

単元の基軸となる問い

「社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断することができるか。」

変化の激しい現代社会について、基本的人権の保障について多様な角度から理解し、自己とのかかわりに着目して、幸福、公正、正義などを用いて考察することができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の民主政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主政治における人間としての在り方生き方について考察しようとしている。	現代の民主社会の諸事象から課題を見だし、民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の民主政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力の分立について理解し、知識を身につけている。

9 指導計画 単元名 基本的人権の保障 全4時間

第1次 法の下での平等・・・・・・・・2時間

第1時 憲法第14条を理解する・・・・・・・・【関】【知】

第2時 夫婦別姓から男女間の不平等について考える・・・・・・・・【思】(本時 1 / 2)

第2次 自由権的基本権・・・・・・・・1時間【知】【技】

第3次 社会権的基本権・・・・・・・・1時間【思】【知】

単元の指導計画

単元	学 習 活 動	関	思	技	知	評価規準等
第 一 次	「私たちの生きる社会では、どのような差別問題があるのか。」					
	<p>○憲法第14条について、理解し、差別問題についての知識を身につける。</p> <p>○法の下での平等に反する事例として何があるか、追究している。</p> <p>○夫婦別姓から男女の不平等について考え、グループで話し合う。</p>	●	●	●	●	<p>◎ワークシートの空欄補充がきちんとできている。</p> <p>◎どのような法的措置がとれるか調べることができる。(ワークシート)</p> <p>◎様々な立場から考察することができる。(生徒観察)</p>

第二次 1時間扱い	「私たちが自由に行動できる権利にはどのようなものがあるのだろうか。」			
	○自由権に関する判例について追究している。	●		◎様々な規定がつけられた理由について、考えることができている。 (ワークシート)
第三次 1時間扱い	「社会権の規定が、私たちの生活にどう関わっているのだろうか。」			
	○社会権について理解し、その知識を身につけている。 ○社会権が規定された背景について、考察している。	●	●	◎ワークシートの空欄補充がきちんとできている。 ◎自分の意見を発表することができている。 (生徒観察)

10 本時の指導目標

夫婦別姓を認めない民法の規定について、最高裁判所が合憲としたことから、男女間の不平等に繋がらないかを考えさせる。また、今後の自分自身の将来について当てはめて考えさせる。

11 本時の展開 ※生徒の学習活動がメインとなるように書く。

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法第14条について復習する。 ・ 本時の目標を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条文が理解できているかを確認する。 ・ 男女の不平等について取り扱うことを説明する。 ・ 目標を達成させるための手立てを示す。 		

展 開 40分 ま と め 5分	SQ 現代社会における、男女の不平等とはどのようなものだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーギャップ指数から男女の不平等について考える。 夫婦別姓を認めない民法の規定について、最高裁判所が合憲としたことから、どのような男女の不平等に繋がるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分野の指数の違いについても考えさせる。 様々な立場から考察させるとともに、これまでの時代の背景についても気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な立場から考察し、自らの考えを適切に表現できている。【思】 	MetaMoJi
	MQ 自らの生活との関わりは、どのようなものだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 今後の私たちの生活において、どのような問題が起こりえるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の生活の中で、問題解決をする際に生かせることができるように留意して指導する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 憲法で基本的人権が保障されているが、未だに人権をめぐる問題が尽きないことを理解し、今後の生活について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化の激しい現代社会について主体的に考察し、適切な表現ができるようにする。 		

評価及び指導

「十分満足できる」と判断される状況	法の下での平等について様々な立場から考察し、自らの考えを適切に表現することができている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	教科書や資料集、ワークシートなどを用いて、参考にするように促す。